

千葉国際芸術祭 2025 企画「かえっこバザール in そごう千葉店」を開催します

千葉市では、千葉国際芸術祭 2025 の企画として「かえっこバザール in そごう千葉店」を開催しますので、お知らせします。

1 かえっこバザール in そごう千葉店

(1) 開催日

令和7年5月10日(土) 12:00～14:30

※雨天時は5月11日(日)に延期

(2) 会場

そごう千葉店地階 センシティガーデン

(中央区新町1000)

(3) イベント概要

「かえっこ」はアーティストの藤浩志さんが考案した子どもたちが主体となって地域のさまざまな場所に活動をつくるアートプロジェクトです。遊ばなくなったおもちゃをカエルポイントに交換したり、そのポイントでおもちゃを持って帰ったりすることができます。おもちゃを持っていなくても、同日にそごう千葉店で開催されるイベントや、お手伝いに参加することで、ポイントをもらえます。

13:30からは入札形式で特別なおもちゃが買える「かえっこオークション」を開催します。たくさんポイントを集めてご参加ください。

(4) 対象

子どもから大人まで参加可能です。※就学前児は保護者同伴

(5) 参加方法

- ・参加費無料。事前申し込み不要。当日会場にお越しください。
- ・開催時間中はいつでも参加できます。
- ・遊ばなくなったおもちゃがある方はお持ちください。

(6) 協力

株式会社千葉センシティ、株式会社そごう・西武 そごう千葉店

(7) 同時開催のイベント

ア こどもエコまつり

工作やゲームを通して環境について楽しく学ぶことができます。

(主催 千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト／千葉大学環境 ISO 学生委員会)

イ アートであそぼう！！

ワークショップや演劇、屋台などを実施予定です。

(主催 アートであそぼう！！実行委員会) 詳細はチラシをご確認ください。



イベントの様子

2 取材について

- (1) 「かえっこバザール in そごう千葉店」の取材を希望される場合は5月7日（水）15：00までに文化振興課（電話245－5261）へご連絡ください。
- (2) 取材の際は、貴社腕章を着用してください。

<参考>

1 千葉国際芸術祭 2025 について

(1) 概要

「千葉国際芸術祭 2025」は、地域の可能性をひらく市民参加型アートプロジェクトの祭典です。まちなかの思わぬ場所がひらかれ、手をあげた人から活動が始まり、アーティストも生活者も来訪者も、みんなでつくる参加型の芸術祭です。

3年に1回開催される「トリエンナーレ方式」の芸術祭として開催準備を進めており、令和7年度の各アーツフィールドでの展開を見据えアートプロジェクトを令和5年度からプレ企画として多数開催しました。

総合ディレクターに中村政人氏を迎え、「ちから、ひらく。」をコンセプトに令和7年度は国内外32組のアーティストによる参加型アートプロジェクトを実施します。

本芸術祭が地域における持続的な文化創造の礎となり、千葉開府900年事業の旗艦事業として、千葉市の「人づくり」「まちづくり」「未来づくり」に寄与し、「個性豊かな新しい千葉文化の創造」の起点となることを目指します。

(2) 会期

まちなかりサーチ・制作期間 4月～9月中旬

集中展示・発表期間 9月19日（金）～11月24日（月・休）

振り返り期間 12月

2 アーティストプロフィール

藤 浩志（ふじ ひろし）氏

1960年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、パプアニューギニア国立芸術学校講師、東京での都市計画コンサルタント勤務を経てプロジェクト型の美術表現を全国各地で実践。

1992年「2025 蛙の池シンポジウム」で Japan Art Scholarship（グランプリ受賞）、バングラデッシュビエンナーレ（グランプリ受賞）、サイトサンタフェビエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭等の国際展の出品をはじめ、国内外のアートプロジェクトに数多く関わる。取り壊される家の柱からつくる「101匹のヤセ犬」、給料一ヶ月分のお米から始まる「お米のカエル物語」、家庭廃材を蓄積する「Vinyl Plastics Connection」、不要のおもちゃを活用した「Kaekko」「Jurassic Plastic」、架空のキーパーソンを作る「藤島八十郎」等。十和田市現代美術館館長を経て秋田公立美術大学教授。



藤 浩志 氏